

生誕 150 周年記念資料(平成 30 年)

電力王 **福澤桃介先生** 上矢作での偉業



福澤桃介寿像 (上矢作町漆原地内)



下村発電所遠景



桃介がドイツより持ち帰ったといわれる花桃

上矢作地域自治区・上矢作自治連合会

発電所記功碑

福澤桃介と上矢作

平成 30 年8月 13 日は1868年（明治元年）生まれの福澤桃介先生の生誕 150 年であり、これを機会に、矢作川水系での発電所事業の歴史について調査した。



発電所記功碑(上矢作町漆原地内)

電力王・福澤桃介先生とその息子福澤駒吉が矢作水力(株)として携わった大正時代の工事はほとんどが人力であり、山間地での作業道の確保、上村川、根羽川のダム工事、隧道掘削、水圧管、発電機設置、送電線工事等々、関連事業は大変な難工事であった。

当時の主要産業の一つであった林業は木材を筏により下流地域に運搬していたが、取水ダムの建設によりそれが困難となった。このため、木材を運搬する道路が必要となり道路改良、橋の建設がダムの補償により行われた。

また発電用の取水により川の水が減水するため、農業用水の確保に堰をコンクリート造とした。これにより豪雨による災害や、渇水の影響も少なくなり、安定した生活用水も確保され、安心して稲作が行えるようになった。

これらの補償による道路整備、生活用水の確保は山間地域での農林作業等の効率を飛躍的に向上させた。また当時、林業が主な産業であった上矢作は六ヶ所の発電所の完成により、多くの住民が発電所関連の仕事に従事することとなり、住民の生活水準の向上等、地域に大きく貢献した。

発電所の放水口より滔々と流れる水を眺めると、100年近く前の大型機械がほとんどなかった時代に、危険な隧道でツルハシを使い、命がけで過酷な作業をしている人の情景が目につく。この水は、その人たちの汗も流しているのか・・・。

○上矢作町漆原に建立された記功碑の碑文は次の通りである。

発電所記功碑 表側

矢作川は源を恵那山連邦に発し、亘長30里23町にして知多湾に注ぐ。上流は水勢急にして水量豊なり。しかも尾三の都市に近接し、本邦有数の水力発電地点たり。福澤桃介氏を中心とする大正企業組合は、夙にここに着眼し大正2年5月、河水使用を出願し、同7年7月その許可を得たり。会々欧州戦乱の影響を受けて本邦工業の勃興著しくために、電力の需要激増の時機に際会したるをもって、大正8年3月、同氏系統の下に矢作水力株式会社を創立し、井上角五郎氏を社長に、杉山栄氏を専務取締役、福澤桃介氏を相談役に推し、専ら本水系の開発に努む。大正8年4月下村発電所着工以来、昭和2年11月、島発電所竣工に至る8か年7か月の間に建設したる発電所は、下村、飯田洞、押山、真弓、上村、島の6個を数え、その発電力は2万4千330キロワットに達す。その費額は932万4千余円にしてこれに従事したる延べ人員は94万5千余人に上がる。この間着々として尾三都邑への送電線を完成し、中部日本工業会に貢献するところ少なからず。

ここに建設工事関係者を併記して、これを記念す。

前建設役名誉顧問	福澤桃介	技師長	小山柳一
前社長名誉顧問	井上角五郎	技師長	桜山壮次
社長	福澤駒吉		
前専務取締役副社長	杉山 栄	請負人	西本健次郎
支配人	久留島通彦	同	飛島文吉
昭和7年5月	矢作川水力株式会社		岩崎紀博書

工事大要 裏側

発電所名	着工及び竣工 年 月 日	発電力 kw	建設費 1kw 当 円	建設当時における現場着値段及労銀			
				白米1升 円	セメント1樽 円	鉄材1貫 円	人夫1人 円
下 村	着工 大正8年4月25日	4,200	459	0.49	11.70	1.10	2.00
	竣工 大正9年12月8日						
飯田洞	着工 大正9年10月9日	630	407	0.44	9.70	0.65	1.80
	竣工 大正10年9月15日						
押 山	着工 大正10年2月24日	3,200	431	0.45	9.86	0.60	1.80
	竣工 大正11年6月26日						
真 弓	着工 大正10年9月18日	5,100	359	0.38	10.22	0.60	1.80
	竣工 大正12年3月16日						
上 村	着工 大正13年4月24日	9,600	341	0.47	9.69	0.46	1.70
	竣工 大正14年10月15日						
島	着工 大正15年11月20日	1,600	402	0.34	7.28	0.45	不明
	竣工 昭和2年11月16日						

※なお、原文は縦書きであるが、読みやすくするため横書きにし、句読点、罫線などを加えた。

瑞浪市

矢作川水系で福沢桃介が携わった発電施設位置図

① 桃介銅像・記功碑



② 島発電所 1,800Kw
水路総延長 3,316m 有効落差 49m



③ 飯田洞発電所 660 Kw
水路総延長 1,526m 有効落差 42m



④ 飯田洞ダム



⑩ 上村発電所 10,400Kw
水路総延長 7,976m 有効落差 306m



⑤ 下村ダム



⑥ 下村発電所 4,700Kw
水路総延長 4,455m 有効落差 84m



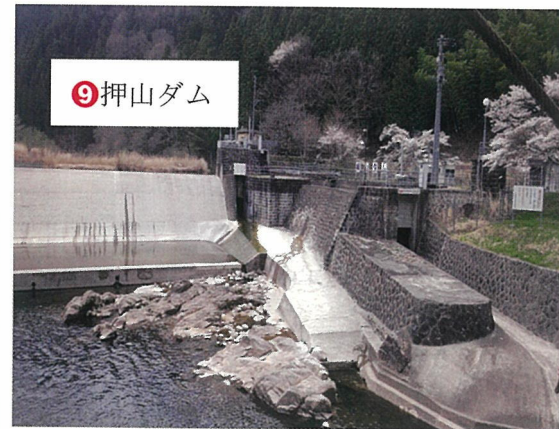
⑦ 真弓発電所 5,600Kw
水路総延長 4,369m 有効落差 176m



⑧ 押山発電所 3,800Kw
水路総延長 2,971m 有効落差 123m



⑨ 押山ダム



<凡例>

- ▼ 水位測水所(中部電力)
- ▽ 水位測水所(国土交通省)



福澤桃介のあゆみと木曾川・矢作川開発の歴史

西暦	和暦	年齢	桃介のあゆみ	建設された発電所
1868	明治元	0	武蔵国横見郡荒子村(現埼玉県比企郡吉見町荒子)にて岩崎紀一、サダの次男として出生(8月13日)	
1883	明治16	14	慶應義塾入学	
1887	明治20	17	福澤諭吉家に入籍	
		18	米国へ渡航・イーストマン商業学校入学	
1888	明治21	19	ペンシルバニア鉄道会社の見習いを始める	
1889	明治22	20	帰国し福澤房と結婚、北海道炭礦鉄道入社	
1890	明治23	21	北海道炭礦鉄道東京支社支配人として東京転勤	
1891	明治24	22	長男駒吉出生[後の矢作水力(株)の社長]	
1894	明治27	25	肺結核療養のため入院(日清戦争開戦)	
1898	明治31	29	王子製紙取締役、利根川水力電気発起人総代	
1899	明治32	30	利根川に水力電気出願[現在の東京電力佐久発電所]	
1900	明治33	31	王子製紙取締役辞任	
1901	明治34	32	福澤諭吉没す(68歳)、北海道炭礦鉄道に再入社	
1904	明治37	35	(日露戦争開戦)	
1910	明治43	41	名古屋電燈(株)取締役、木曾川水力開発調査に着手	八百津着工(明治45年竣工)
1914	大正3	45	(第1次世界大戦勃発) 愛知電気鉄道取締役、名古屋電灯社長	
1917	大正6	48	電気製鋼所社長	賤母着工(大正8年竣工)
1918	大正7	49	木曾電気製鉄社長	大桑着工(大正10年竣工)
1919	大正8	50	矢作索道開通、矢作水力(株)設立・相談役 東海電気鉄道(株)社長	下村着工(大正9年竣工)
1920	大正9	51	木曾電気興業、日本水力、大阪送電を合併し、大同電力(株)社長就任	飯田洞着工(大正10年竣工)
1921	大正10	52	大阪送電線路起工、関西電気(株)社長	押山着工(大正11年竣工) 真弓着工(大正12年竣工) 須原着工(大正11年竣工) 読書着工(大正12年竣工) 大井着工(大正13年竣工)
1922	大正11	53	北恵那鉄道(株)社長、東邦瓦斯創立	桃山着工(大正12年竣工)
1923	大正12	54	(関東大震災)	
1924	大正13	55	大同電力特別高圧送電開始	上村着工(大正14年竣工)
1924	大正14	56		落合着工(大正15年竣工)
1926	昭和元	57	帝国劇場取締役会長	島着工(昭和2年竣工)
1928	昭和3	59	勲三等旭日中綬章受賞、実業界から引退を表明	
1929	昭和4	60	(世界大恐慌)	
1931	昭和6	62	(満州事変)	
1938	昭和13	69	東京渋谷本邸にて永眠(2月15日)満69歳	

<お問合せ> 恵那市上矢作地域自治区 TEL (0573) 47-2111

※年齢は1月1日の満年齢